

四国工業研究会セミナー
「四国におけるBCP、産業基盤に関する地質セミナー」

四国地方は、世界でも非常にまれな複雑な地質、主に海洋プレートが大陸プレートに沈み込む環境（沈み込み帯）で形成されており、地形は、中央部に標高1,800～2,000m程度の山岳地域があり、わずか50～80kmの距離で標高0mに達する急峻な地形となっています。こうした地形・地質的特性は、雨が降ると土砂が一気に海まで流れ出ることになり、頻発する湯水や土砂災害、あるいは洪水に対する対策として考慮する必要があります。近年の地球温暖化の影響と考えられる異常気象や30年内の発生確率が70～80%の南海トラフ地震等による緊急事態は前触れもなく発生し、有効な手を打つことができなければ、企業活動に多大な損害をもたらす恐れがあります。緊急時に倒産や事業縮小を余儀なくされないためには、平常時からBCPを周到に準備しておき、緊急時に事業の継続・早期復旧を図ることが重要となります。またこのような対応をする事は、顧客の信用を維持し、市場関係者から高い評価を受けることとなり、企業価値の維持・向上につながると考えられています。そこで今回は、1882年に設立された農商務省地質調査所に端を発する産総研地質領域の専門家による、産業活動において重要な四国地域の地質や土壌についてのセミナーを開催する事としました。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

日時：2023年3月8日（水）15：00～17：15

場所：産業技術総合研究所四国センター講堂 & オンラインのハイブリッド開催

主催：四国工業研究会 共催：産業技術総合研究所四国センター

参加費：無料 申込方法 締切2023年3月6日（月）

以下の申込フォームからお申し込みください。お申し込み後にメールにて、接続先（Zoom）をご案内いたします。（14時15分より接続可能です）Zoomのフォームを使用しているため、会場参加を希望されている方にも、Zoomの参加URLが自動的に送信されますので、ご了承願います。

https://zoom.us/meeting/register/tJ0sf-rqzkhHbJfE-l_bUxcSmG3K2W6I5



プログラム：

15:00-15:15 挨拶 四国経済産業局 局長 原 伸幸

15:15-15:25 「日本の国土の地質を知る ―地質情報研究部門の紹介―」
地質情報研究部門 部門長 荒井 晃作

15:25-15:55 「四国の地質と自然災害」
地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ長 原 英俊

15:55-16:10 質疑応答

休憩

16:15-16:25 「社会課題解決を目指す地圏資源環境研究部門内の研究成果紹介」

地圏資源環境研究部門 部門長 今泉 博之

16:25-16:55 「表層土壌評価基本図の概要と利活用に向けた検討」

地圏資源環境研究部門 地圏環境リスク研究グループ長 川辺 能成

地圏資源環境研究部門 地圏環境リスク研究グループ 主任研究員 原 淳子

16:55-17:10 質疑応答

17:10-17:15 閉会挨拶 四国センター所長 大西 芳秋

「日本の国土の地質を知る ―地質情報研究部門の紹介―」 発表者：荒井 晃作

地質情報研究部門は、社会・経済を下支えする図幅類等の地球科学図や関連研究データの整備を行っています。地質情報の整備は、単に知的好奇心の蓄積だけにとどまりません。地球のダイナミクスを知り、きちんと理解することは、強靱な国土を作るために重要な研究であり、地域の産業や経済活動の支えとなります。

「四国の地質と自然災害」 発表者：原 英俊

四国の地質には、カンブリア紀から第四紀まで、約5億年の長い地質記録が残されています。日本列島のほとんどの地質体が揃っている学術的に極めて価値の高い地域です。またその多くが、海洋プレートが大陸プレートに沈み込んで形成された地質体（付加体・変成岩・深成岩）からなります。海洋プレートの沈み込みは、現在でも南海トラフで継続しており、南海地震などの海溝型巨大地震を発生させています。四国では過去に起きた海溝型地震の痕跡（地震断層や津波堆積物）が陸上で見つかっています。過去の地震の痕跡を解明することで、巨大地震の仕組みや想定被害の理解につながっていきます。また台風などで発生する山間部での地すべりは、地質や地形の特性によって発生することが知られています。本セミナーでは、四国の地質、自然災害と地質の関係について、また最後に香川の地質の紹介させていただきます。

参考資料

四国に残された日本列島5億年の歴史

https://www.aist.go.jp/aist_j/new_research/2018/nr20181101/nr20181101.html

香川をつくった1億年の歴史

https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20170724/pr20170724.html

世界第一級の大断層「中央構造線」が走る“阿波池田”地域の地質

https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2021/pr20210419_2/pr20210419_2.html

日本の骨格図を描き出せ！～地質図作成プロジェクト～

<https://www.youtube.com/watch?v=b16iqokbFgE>

「社会課題解決を目指す地圏資源環境研究部門内の研究成果紹介」 発表者：今泉 博之
産業技術総合研究所地質調査総合センター傘下の研究ユニットの一つである地圏資源環境研究部門は「持続可能な地圏の開発利用と保全のための調査と研究」をミッションとしています。その下で、環境保全と開発・利用との調和を実現する技術開発と共に、国の資源エネルギー政策や産業の持続的発展に貢献するために、地下資源の安定確保・利用および地下環境のバリア機能の利用、産業利用に伴う地下環境の保全に関する調査・研究、さらに関連する地圏調査や分析技術の開発を実施しています。今回は、最近の研究成果を中心に紹介し、興味を持っていただいた方々との連携の端緒にしたい。

「表層土壌評価基本図の概要と利活用に向けた検討」 発表者：川辺 能成・原 淳子
我が国では、土壌中に含まれる自然由来の重金属類も規制対象とされており、有害元素の由来判別やバックグラウンド情報の把握が急務とされている。表層土壌評価基本図は、土壌を対象とした自然由来重金属類のデータベースであり、各種成分の濃度分布に加え、有害重金属類の健康リスク評価結果を示している。これまで各地の整備を進めてきたが、ここでは四国地域の特徴を中心に紹介し、利活用促進に向けた研究動向を紹介します。

※登録いただきましたメールアドレス等の情報は、個人情報保護法のもと適切に管理し、本研究会に関する確認・連絡及び産総研主催のイベント案内にのみ利用します。

※コロナ禍の状況によっては、開催形式の変更や延期をさせていただくことがあります。

【ご来場される方へのお願い（新型コロナウイルス対策について）】

- マスクのご着用および咳エチケットにご協力をお願いいたします。
- 会場等に設置します消毒液にて、手指消毒のご協力をお願いいたします。
- 咳、発熱などの体調不良の症状がある方は、無理をなさらずご来場をお控えいただきますようお願いいたします。